

～VUCA（ブーカ）な時代と教育～

VUCA（ブーカ）とは Volatility、Uncertainty、Complexity、Ambiguity の頭文字をとって作られた用語で、それぞれの意味は右の通りです。ビジネスの世界で使われてきた用語です。誰もが知っている有名企業の大幅なリストラやメイン事業の売却などからも分かるように大企業といえども安泰ではなく、終身雇用の時代とはいえなくなっています。予測できない VUCA な時代へと世界は進んできています。日本を取り巻く世界の環境も著しい変化を遂げています。「日本および先進国での少子高齢化」「日本での労働生産性の低下」「グローバル化」「多極化・多様性の高まり」「インターネットの発達と人工知能（AI）の進展」など、この変化はものすごいスピードで加速をし続けています。

Volatility	：不安定で変化が激しい
Uncertainty	：不確実性が高く先行きが見えない
Complexity	：様々な要素が複雑に絡み合っている
Ambiguity	：ものごとの因果関係があいまい

このような VUCA な時代における教育にはどのような視点が必要なのでしょうか？今でのような「知識偏重型教育」ではこの加速する未来に対応できる生徒を育てることは難しいと考えます。文部科学省も、この社会変化に対応するために、「高大接続改革（大学入試改革）」を行い、「学習指導要領」の改訂と大きな教育改革を計画しています。特に高大接続改革は、なかなか変わらなかった高等学校の教育指導を、大学入試を変更することによって、強制的に改革しようとするものです。前回の学習指導要領の改訂でも『生きる力』がキーワードとなっていました。この「生きる力」をどう育むかが大きな課題となります。

平成 30 年 3 月に告示された、高等学校学習指導要領の前文には、『これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。』とあります。今、本校でも作成を行っているグランドデザインは、ここに書かれていることを、具体的かつ明確に定め、それぞれの学校が計画する教育課程を、社会に対して広く公開するものです。

今までの教育は、ガイドブックを与えられ旅行するようなものであり、これからの教育は、コンパスと自分でそろえた道具を持って探検にいくようなもの、ではないでしょうか。探検には冒険心（探究心）と強い意志（志）が必要です。「志」を持って進むことこそ、「生きる力」を付けることにつながると思います。志のために、何を学ぶ必要があり、どう学べばそれが身につくのか、それを生徒自身で考え、つかむ力が大切です。生徒が学ぶ方法を身に付け、学ぶことの楽しさを身に付けることができたら成功です。VUCA な未来では、情報は絶えず変化し、学習したことはどんどん古くなって行きます。学ぶ力が身につけていないと、未来の社会には対応できません。VUCA な社会を生き抜く生徒を育てるため、我々教師も変革が必要です。主体的・対話的な深い学びと、探究的な学習を通して、主体的な学習者を育てることが大切です。